

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	田原)第2鋳造工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県田原市緑が浜三号1番 他91筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2025年2月21日
敷地面積	39,102 m ²	作成者	天野 賢治
建築面積	2,814 m ²	確認日	2025年2月25日
延床面積	3,774 m ²	確認者	天野 賢治

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	84%
③上記+②以外の	84%
④上記+	84%

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
田原)第2製造工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
									建物全体・共用部分	住居・宿泊部分
Q 建築物の環境品質									2.6	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策										
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気										
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.2	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.5 2.9 0.52	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4 3.0 0.48	
2 免震・制震・制振性能									3.0 3.0 0.80	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.0 3.0 0.20	
1 躯体材料の耐用年数									0.3 3.1 0.33	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0 0.23	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									2.0 0.23	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									5.0 0.09	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0 0.08	
6 主要設備機器の更新必要間隔									4.0 0.15	
2.4 信頼性									0.1 2.8 0.19	
1 空調・換気設備									3.0 3.0 0.20	
2 給排水・衛生設備									3.0 3.0 0.20	
3 電気設備									3.0 3.0 0.20	
4 機械・配管支持方法									3.0 3.0 0.20	
5 通信・情報設備									3.0 2.0 0.20	

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.55				2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.61	3.0	5.0	0.23		5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13		3.0
3 設備システムの高効率化				BEIm=0.78	3.0	3.2	0.45		3.2
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.2
1 水資源保護					0.1	3.6	0.15		3.6
1.1 節水					3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.3	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	4.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.0	0.63		3.0
2.1 材料使用量の削減						3.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.25		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②			3.0	0.21		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自			3.0	1.0	0.21	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自			3.0	5.0	0.25	
①躯体+LGS+ボード②再利用できるユニット部材						0.2	3.6	0.22	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	3.0	0.32		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					0.6	4.0	0.68		
3.2 フロン・ハロンの回避						-	-		
1 消火剤						5.0	0.50		
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	3.0	0.50		
3 冷媒									
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮			①			3.6	0.33		3.6
ライフサイクルCO2排出率84%					0.3	2.4	0.33		2.4
2 地域環境への配慮						3.0	0.25		
2.1 大気汚染防止						2.0	0.50		
2.2 温熱環境悪化の改善					0.2	2.7	0.25		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.0	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		
3 交通負荷抑制			独自			3.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制						2.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自			3.0	1.00		
2 振動			独自			-	-		
3 悪臭						-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制						3.0	0.70		
2 砂塵の抑制						3.0	-		
3 日照障害の抑制						3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		

重点項目スコアシート
田原)第2建造工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.23	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 田原)第2鑄造工場

計画上の配慮事項	
総合	法規制と建築主が求める諸条件をクリアして計画をすすめた。 環境負荷低減に配慮し、LR1の省エネルギー性能向上を重視した。 また、Q分野についても可能な限り配慮を図った。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	耐久性のある配管、補修必要間隔の長い内装材の採用や、空間にゆとりをもたせ更新や用途変更にも対応できるようにした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物周囲に視線を遮るものを設置しないようにした。
LR1 エネルギー	BPI=評価対象外 BEIm=0.78【事務所部分】 設備への省エネ性能を重視した
LR2 資源・マテリアル	自動水栓機能つき水栓や節水型便器を採用し、トイレ排水には工業用水を導入。 断熱材は環境保護のため、鉱物繊維系のグラスウールを採用。 分別容易な部材構成とし、強度の高い構造材とすることで材料使用量を低減。
LR3 敷地外環境	広大な敷地のなかに仮想閉空間を設定しているが、可能な限り敷地外環境に悪影響を及ぼさない配慮をした。
その他	既存工場と不可分であるため、仮想敷地・LR項目においては一体で評価する